

第16回陸側遮水壁タスクフォース議事概要

日時：平成27年7月10日（金）15：30～18：00

場所：経済産業省別館1階114各省庁共用会議室

出席者：大西主査、西垣委員、伊藤委員、赤川委員、藤田委員、丸井委員、鎌田委員、
下戸委員代理、松尾委員、井尻委員、伊東委員、東京電力、鹿島建設、
田中対策監、吉田審議官、新川総括調整官、湯本室長、江口対策官、豊口企
画官、水野調整官、伊奈補佐

議事概要：

議題1. 1号機タービン建屋滞留水処理について、東京電力より説明。【資料1】

<主なコメント>

●雨水は、どの程度流入することを想定しているのか？

→1号タービン建屋内部への雨水の流入は、大きくないものと想定している。

●1号機タービン建屋以外の建屋についても、水位低下の方法について検討が必要である。

→1号機タービン建屋以外の建屋についても、並行して検討を進める。

●地下水流入箇所を特定するために、建屋周囲に観測井を追加することは可能か。

→サブドレン井戸は観測井となるが、設置可能な箇所には既に設置しているので、そのなかで観測していく予定である。

●建屋内のダスト飛散対策として、遮蔽する方法と除染する方法とがあるが、どちらの方法で進める予定か？

→基本的には、除染しながら進める予定である。

●D/G室がH/B室よりも高線量なのは、温度が高いことによる可能性もあるので、除染作業をする際の室温についても測定してはどうか。

●現場調査に当たっては、線量率の調査が重要。特に、放射線が何処からきているのかを調査するべき。

●現地調査に当たっては、可能な限り写真を撮っておくべき。

議題2. 陸側遮水壁の進捗について、鹿島建設、東京電力より報告。【資料2】

<主なコメント>

●No.7は、ブライン停止状態を継続するのか。

→降雨の影響なども含まれているので、もう少し観測を継続した上で、判断したい。

- 凍結を行っている部分だけでなく、凍結していない部分も含め、温度分布を整理するとよい。

議題3. 陸側遮水壁に関する原子力規制委員会特定原子力施設監視・評価検討会における説明・審議状況について、東京電力より報告。【資料3】

<主なコメント>

- 陸側遮水壁の水位管理については、監視・評価検討会で、十分説明がなされておらず、サブドレンを先行することが、基本シナリオとなっている。
- 陸側遮水壁の閉合後に局所的な漏えいがないかが懸念されている。試験凍結を実施しているなかで、No.7の水位が、事前予測以上に低下していることが問題視されている。
→当然ながら、解析による事前予測に基づき水位管理するのではなく、実測に基づき水位管理していく方針。
- 平均的な水位により管理するだけでなく、局所的な水位も把握しながら管理していく方針であるなら、その点の理解が得られるよう説明すべき。

以上